

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	教科教育コース・社会科教育選修

教育学部の教育目的(具体的に記述・箇条書き)		学校教育教員養成課程の教育目的(具体的に記述・箇条書き)				教科教育コース・社会科教育選修の教育目的				
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。		子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。				社会科各分野の学習と人間(思想)・社会を探究する学的な経験を通して、社会に関する理解を深め、社会のあるべき姿を相対的に捉えることのできる学生を育て、学校現場で人間味豊かな指導力を発揮できる人材を養成する。				
学校教育教員養成課程教科教育コース・社会科教育選修のカリキュラム		学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)				教科教育コース・社会科教育選修のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)				
授業科目名	授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。)	S1. 教育理念理解力・教職展望力: 教育理念や制度、教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。	S2. 教育方法・技術力、指導力: 幼児・児童・生徒の心身の発達段階や教科の特質、教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。	S3. 生活指導力: 道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、幼児・児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。	S4. 教育実践力: 教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。	SS1. 初等教育および中等教育の社会科各領域(地理、歴史、公民)の指導法を理解し、児童・生徒の成長過程に合わせて授業を展開できる。	SS2. 人間存在・社会についての深い関心と理解を基礎に、さまざまな社会の動きを把握し、現代社会を生徒・児童とともに考え、探ることができる。	SS3. 社会科各領域の基礎的な研究手法をコンピュータの活用も含めて修得し、児童・生徒とともに調査活動を行うことができる。	SS4. 課題研究、卒業論文作成等を通して、自ら設定した社会に関する課題について、既往の文献を批判的に検討し、正確な資料に基づいて論理的な文章を構成し、かつ説得力のある議論を展開できる。
学部共通科目										
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎			1. ◎ 2. ○ 3. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. ○	1. ○ 2. ◎ 3. ◎
教職に関する科目(小・中)										
教職概論	1. 教職の意義や魅力、求められる資質、能力などについて理解する。 2. 教職への意欲、志向、使命感などを育む。	1. 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2. 教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 3. 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. △	1. △	1. △				
教育原論	1. 教育を成り立たせる原則 2. 教育理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開	1. 教育理念、目標、思想、歴史について説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 教育について系統的に考えようとすることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
教育哲学	1. 教育哲学の学問的性格 2. シュプラングァーの生涯と教育哲学 3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	1. 教育哲学の学問的性格が理解できる 2. シュプラングァーの生涯と教育哲学が理解できる 3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色が理解できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
教育史	1. 日本の教育理念・思想の歴史的展開 2. 日本の教育の歴史的性格	1. 日本の教育理念・思想の歴史的展開について説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 日本の教育の歴史的な性格について説明することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
発達心理学	1. 人間の発達の原理・要因について理解を深める。 2. 発達段階及びその発達課題について学習する。 3. 学校・家庭・地域など身近な場面での生涯発達として捉える。	1. 自己の理解の上に立ち、発達心理学的知識を確実に吸収する。 2. 知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、判断できる。 3. 日常生活に密接した興味・関心のある内容に意欲的に取り組む。 4. 心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 5. 心理学を科学として位置づけることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎							

教育心理学	1. 学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価についてデータに基づいて説明する。 3. いろいろな指導法や心理療法について概説する。	1. 子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 3. いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○ 3. ○						
教育社会学	本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達(=社会化)について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1. 社会化概念について説明できる。 2. 子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。 3. 講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4. 現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎							
教育制度	1. 学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 2. 基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	1. 学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 2. 教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	1. ◎ 2. ◎							
教育法規	1. 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1. 現行教育法規の要点が理解できている。 2. 主要な教育法規について、法規定の文言、その意図するところを把握できている。	1. ◎ 2. ◎							
社会教育	1. 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1. 生涯学習のねらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 2. 社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	1. ◎ 2. ◎							
国際理解教育概	1. 国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 2. 各自の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 3. 現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1. 国際理解および国際理解教育の必要性や概念と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2. 国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3. 日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	1. ◎ 2. ○ 3. ◎	2. ◎ 3. ○						
教育方法学	1. 授業の基本原則 2. 主体的な学びの成立と指導 3. 教育課程の編成	1. 授業が持つ4つの基本的性格について理解し、説明できる。 2. 児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の諸技術について説明できる。 3. 教育課程の編成原理と方法について説明できる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
教育メディア論(教育課程、情報機器及び教材を含む。)	教授・学習過程(授業)において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割、効果について学修する。さらにパソコン、インターネットなどによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価について学修する。	1. メディアを利用した授業の特徴を理解できる 2. 論理的、批判的な思考力と判断力について学び実践できる 3. メディアを利用した教材の開発ができる 4. 自発的、独創的に取り組む姿勢がもてる 5. メディアを利用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実施・評価ができる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎							
道徳教育	1. 道徳の語源と意味 2. 西欧の道徳観の変遷 3. 道徳教育の目的・内容・方法	1. 道徳の語源と意味について理解できる 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎	3. ◎					
特別活動	1. 特別活動の目標と内容 2. 学級指導の基本原則と方法 3. 特別活動の指導計画	1. 特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 2. 学級活動の指導原則とその方法について説明できる。 3. 特別活動の指導計画作成の基本的観点と構成要素について理解し、指導できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △				
生徒指導概論	1. 生徒指導の意義と目的 2. 生徒指導の内容と方法 3. 生徒指導計画	1. 生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 2. 生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 3. 生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △				

教育相談・進路指導	1. 生徒指導と教育相談の違いについて説明する。 2. 学校における不登校、いじめ、非行などさまざまな問題に対する基本的姿勢について解説する。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について解説する。	1. 生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 2. 不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について基本的技法を理解する。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎						
事前・事後指導	1. 教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする 2. 教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける 3. 教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う 4. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する	1教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること 2. 授業記録を作成することができること 3. 授業参観等を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること 4. 授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること 5. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること 6. 教育実習を通して習得した内容をまとめることができること 7. 実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること 8. 教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の変容について説明することができること	3. ○ 7. ○		4. ○ 8. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎					
小教職に関する科目(小)											
教科教育法国語	小学校の国語教科書における文学教材の学習指導のあり方について考究する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の文学教育が当面する課題や問題点を検討してゆく。	1. 文学教育の変遷および今日的課題について、概要を説明できる。 2. 文学教育の問題点や今日的課題について、自分の考えをまとめることができる。 3. 文学教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 4. 多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができる。 5. 自分の見解を口頭や文章で適切に表現できる。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎						
教科教育法社会	1. 小学校社会科の教材研究と教材構成 2. 小学校社会科の授業構成	1. 地域調査や教材研究を通して、小学校に対応した学習資料を作成できる。 2. 一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できる。			1. ◎ 2. ◎		1. ◎ 2. ◎	1. ◎ 2. ◎	1. ○		2. ○
教科教育法算数	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について解説する。 2. 小学校算数の指導方法に関して解説する。	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について理解する。 2. 小学校算数の指導方法について基本的な判断ができる。			1. ◎ 2. ◎						
教科教育法理科	小学校理科に関わる科学的現象の中から重要な教材を取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。	1.小学校理科教材に関する基礎的知識を理解し、説明できる 2.小学校理科に関する実験・観察の技能を修得し、結果について適切な分析や評価ができる 3.自然現象を初め、身の回りの事象に広く興味関心をもつ 4.理科に関する児童の興味・関心を高める教授法を工夫できる			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	4. ◎					
教科教育法生活	生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。	1. 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2. 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について説明できる。 3. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 4. 生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 5. 日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 6. 日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎						
教科教育法音楽	1. 小学校の音楽科の実践に必要な、音楽科の役割・音楽的発達・音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。 2. 実践に向けて、学習計画・学習指導案について教授し、実際に教材研究を行って学習指導案を作成し、その模擬授業を通して授業研究を行う。	1. 小学校音楽科に関する知識や学習理論を習得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2. 学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、小学校音楽科の内容・方法について研究することができる。			1. ◎ 2. ◎						

教科教育法図画	本授業は性格上、以下の2側面を持つ。(1)美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学Ⅰ～Ⅳ」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。	1. 普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。	1. ○	1. ◎					
教科教育法体育	1. 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。 2. 授業は体育領域(海野)と保健領域(友定)に分け実施する。そのため2グループ編成で、6～7回で担当を交代する。	1. 小学校体育科の体育領域および保健領域について、その教育目標、教科内容・教材づくり、教育方法等に関する基礎的事項を理解する。		◎					
教科教育法家庭	1. 小学校学習指導要領「家庭科」の歴史の変遷について 2. 現行小学校家庭科の目標、内容・指導方法・評価について 3. 家庭科の独自性について 4. 授業設計の基本的観点について 5. 指導案の作成	1. 小学校学習指導要領の変遷を理解する。 2. 家族や人と関わる意味やよさについて説明できる。 3. 実習における安全、衛生を説明できる。 4. 家庭科の教材と「よりよい家庭生活」形成の関連について理解する。 5. 「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。 6. 小学校家庭科の基本的な事項について理解する。 7. 授業を組み立てる際の基本的な観点について理解する。 8. 児童の生活実態をふまえ、児童が興味・関心・意欲をもって取り組める指導案を作成できる		1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. ◎ 5. ○ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎					
教育実習(初等)	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎			
教育実習(初等)	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎			
教職に関する科目(中)									
社会科教育学Ⅰ	1. 中学校社会科で取り扱う題材に関して自主的に教材研究を進める。 2. 教材研究の成果を基に、単元を構成するとともに、授業構想を練る。 3. 授業研究の成果を発表するとともに相互に検討し深める。	1. 中学校社会科で取り扱う題材について主体的に教材研究することができる。 2. 中学校社会科の授業プランをまとめることができる。 3. 授業研究の成果を相互に深めることができる。		1○ 2○ 3○		1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎		
社会科教育学Ⅱ	1. 社会科の教科成立の原理 2. 社会科のカリキュラム構成に関する諸問題 3. 現行学習指導要領の意味付け 4. これからの社会科カリキュラムのあり方	1. 社会科の成立をめぐる諸問題、特に現代社会・社会科学・子どもの三者の相互関係を理解している。 2. 総合社会科・分化社会科・認識形成・態度形成に関する概念を理解している。 3. 学習指導要領等の資料に対し、カリキュラム的な観点から論評することができる。 4. カリキュラム的な観点から社会科指導計画等を構想し、発表することができる。				1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ◎	1. ○ 2. ◎ 3. ○ 4. ○	1. 2. ○ 3. 4. ◎	1. △ 2. △ 3. ◎ 4. ◎
社会科教育学Ⅲ	社会科教育の「今」、「これまで」を踏まえ、「これから」を実践的に検討する。 1. 社会科教育実践を分析・紹介する。 2. 教科選択の視点と方法を探る。 3. 授業方法の工夫を探る。	1. 社会科教育実践を分析・紹介することができる。 2. 教科選択の視野と方法を探ることができる。 3. 授業方法の工夫をさぐることができる。		1○ 2○ 3○		1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1○ 2○ 3○	
中等地理歴史教	1. 現行の中学校・高等学校の地理歴史教育のカリキュラムの現状 2. 中等地理歴史教育における争点 3. 中等地理歴史教育の単元構成 4. 中等地理歴史教育の指導計画 5. 中等地理歴史教育の評価	1. 現行の中等地理歴史教育について、以下の概念を通して説明できる。社会科歴史 社会科地理 内容構成・単元構成・教材構成 2. 中等地理歴史教育の現状の争点を、学習原理的視座から説明できる。 3. 地理・歴史に関する単元構成のあり方について、争点を踏まえて論評し、単元計画を立てることができる。 4. 地理・歴史に関する授業計画のあり方について、争点を踏まえて論評し、授業計画を立てることができる。 5. 地理・歴史に関する評価のあり方について、争点を踏まえて論評し、評価計画を立てることができる。				1. ○ 2. ○ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ○	1. 2. 3. ○ 4. ◎ 5. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. △ 4. △ 5. △

中等公民教育論	1. 中学校社会科公民分野・高校公民科で取り扱う題材に関して自主的に教材研究を進める。 2. 教材研究の成果を基に、単元を構成するとともに、授業構想を練る。 3. 授業研究の成果を発表するとともに相互に検討し深める。	1. 中学校社会科公民分野・高校公民科で取り扱う題材について主体的に教材研究することができる。 2. 中学校社会科の授業プランをまとめることができる。 3. 授業研究の成果を相互に深めることができる。	1○ 2○ 3○		1○ 2○ 3○	1◎ 2◎ 3◎	1○ 2○ 3○		
中等地理歴史教育	1. 中等地理・歴史教育の実践的諸問題に関して、主に演習形式による検討を通して考察を深める。 2. 具体的なカリキュラム構想や授業実践の分析を通して、地理・歴史授業を教科の教授学的視点から考察する。	1. 地理歴史教育、社会科教育に関する自らの研究課題をあげることができる。 2. 地理歴史教育、社会科教育に関するさまざまな「理論」や指導計画、授業実践に対し、カリキュラム的観点や授業構成論的観点から考察し、分析することができる。				1. ○ 2. ○	1. ○ 2. ◎	1. △ 2. ○	1. ◎ 2. ◎
中等公民教育論	1. 中学校社会科公民分野・高校公民科で取り扱う題材に関して専門家・当事者から学び教材研究を進める。 2. 教材研究の成果を基に、授業構想を練り、相互に検討し深める。	1. 中学校社会科公民分野・高校公民科で取り扱う題材に関して専門家・当事者から学び教材研究を進めることができる。 2. 教材研究の成果を基に、授業構想を練り、相互に検討し深めることができる。	1○ 2○		1○ 2○	1◎ 2◎	1○ 2○		
教育実習(中)	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。	1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				
教育実習(高)	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。	1. ○ 2. ○ 3. ◎	1. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				
教科または教職に関する科目									
介護等体験実習	養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて7日間、介護等の体験を行う。	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。	○		◎				
国際理解教育論	1. 国際理解教育とは何かを理解する。 2. 国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる。 3. 国際理解教育を学校教育で行う際の計画をたてる。	1. 国際理解教育の理念と歴史を理解する。 2. 地球的な課題について知識を深め、理解する。 3. 地球的な課題についての自分の意見を持つ。 4. 学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。 5. 学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。 6. 複雑な国際問題を理解しようとする。 7. 批判的に考えることができる。 8. 自分の意見を論理的に発表できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎	1. ○ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ○ 7. ○				
教科に関する科目(小学校専門科目)									
初等科国語	本授業では先ず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考察し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点および方法について具体的な説明を試みる。	1. 言語の機能について説明できる。 2. 小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 3. 教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4. 言語の役割や働きに高い関心を持つ。 5. 積極的に教材開発分析に取り組むことができる。 6. 小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7. 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8. 文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9. 改革の視点を考えることができる。 10. 授業改革について関心を示すことができる。 11. まじめに取り組むことができる。	1. ○ 2. ○ 3. ◎ 4. ○ 5. ◎ 6. ◎ 7. ○ 8. ◎ 9. ◎ 10. ◎						
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、それぞれの専門的視座から問題構造の概要を概説し、教材開発への方向性を示唆する。	1. 小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学、地理学、法学、社会学、哲学倫理学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深める。 2. 小学校社会科教材分析の視点と方法を習得する。	1. ◎ 2. ◎			1. ○ 2. ○	1. ○ 2. ○		
初等科数学	1. 学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する。	1. 学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について具体的に指摘することができる。	1. ◎ 2. ◎						
初等科理科	1(前半)受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。 2(後半)小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物地学分野に分けて講義する。	1. 小学校理科に関する教材を科学的に理解する 2. 自然現象に興味関心をもつ 3. 小学校理科の教材研究ができる	1. ◎ 2. ○ 3. ◎		3. ○				
初等科生活	1. 小学校低学年の生活科授業を運営して行く上で必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1. 生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2. 体験型授業の基本を理解し、構想できる。	1. ◎ 2. ◎						

社会科学特別研究	卒業論文作成に直接つながる指導を個別に行う。とくに公民分野について検討する。	1. 課題の内容に対する歴史的な背景や周囲の状況が把握できており、課題の目的が明確に説明できる。 2. 調査、研究方法、考察結果をその道筋に沿って説明できる。 3. 結果を課題と関連付けて説明し、結果の持つ意味合いを理解している。 4. 課題解決方法の特徴、オリジナリティを示し、今後の展望について述べるができる。						2. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎
社会学	社会学の代表的な理論の基礎を学ぶとともに、受講者にとって身近なテーマを事例として取り上げ、現代社会が直面しているさまざまな問題について理解を深める。	1. 社会学の基礎的な概念について理解を深める。 2. 現代社会が直面しているさまざまな社会現象、社会問題を取り上げ、それらの背景、要因について考察する。 3. 自身の日常を取り巻く社会を含め現代日本社会、および国際社会においてどのような問題が起きているのか、なぜそのような問題が起きるのか、自ら探究心を持って考察・分析する意欲を養う。 4. 社会学の概念を用いて、現代社会のさまざまな事象、社会問題について読み解く能力を修得する。	2. ○ 3. ○			2. ◎ 3. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	1. △ 2. ○ 3. ○ 4. △	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎
社会調査論	社会調査の基本的な考え方、技法を学ぶ。講義の前半(第2～6回)は標本(量的)調査について、後半(第8～11回)は事例(質的)調査についてそれぞれの調査法の長所・短所を理解しながら学ぶ。レポート課題では自分が実際に社会調査を実施すると仮定して調査計画、調査票を作成する。そのうえで、望ましい社会調査のありかたについて検討を行なう。	1. 社会調査の基本的な考え方、手法について理解を深める。また、標本調査、事例調査それぞれについて基礎的な知識・技法を習得する。 2. 社会調査の持つ意義を理解し、現代社会を分析する手段としての社会調査に関心を持つ。 3. 標本調査の企画からサンプリング、実施、分析にいたるまでの基礎的な技法を習得する。						1. △ 2. ○ 3. △	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎
社会学演習	社会学の主要な概念、議論などについて文献の講読を通じて学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内の発表を行なう。	1. 課題文献・資料を読解し、適切な理解をすることができる。 2. 課題文献・資料の内容を社会学の理論、分析枠組みに従って批評することができる。 3. 課題文献・資料について自らの見解を積極的に述べ、また討議することができる。 4. 課題文献・資料を適切に理解したうえで、内容を完結にまとめ、発表することができる。					1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎
経済概論	経済学に関する基本的な理論を体得するとともに、現代世界における様々な経済現象を解釈する能力を養う。	1. 基礎的な経済理論を体得する。 2. 実際の事例を取り上げ、その解釈について検討する。 3. 学校教育において経済をとりあげる意義を考える。	3. ○		3. △	3. ○	1. ◎ 2. ○	2. ◎	2. ○
経済政策(国際経済)	経済政策、国際経済についての概説を行うとともに、実際の事象を取り上げたケーススタディを行う。	1. 経済政策(国際経済を含む)に関する基礎を体得する。 2. 経済政策(国際経済を含む)に関する処理論を踏まえたケーススタディを行う。 3. 経済政策と教育についての認識を深める。	3. ○		3. △	3. ○	1. ◎ 2. ○	2. ◎	2. ○
社会科学基礎演習	現代社会の諸問題を多角的に検討する。自らテーマを選び、文献等を読み、発表・討議する。	1. 文献選択の方法や講読の仕方を理解できる。 2. 社会の諸問題を考察する際の視角を吟味できる。 3. 現代社会の諸問題に関心をもつ。 4. 積極的に討議に参加できる。 5. レポートを作成し、発表することができる。					3. ○ 4. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎
哲学倫理学I	哲学ないしは倫理学の基本的な諸知識を理解し、物の考え方や人の生き方を検討する	1. 古代・中世・近代の哲学ないしは倫理学の大きな流れを理解する。 2. 物の考え方や人の生き方を議論するための哲学的問答法を理解する。 3. 現代社会における物の考え方や人の生き方の特徴を理解する。					1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		1. ○ 2. ◎ 3. ○
哲学倫理学II	現代哲学ないしは倫理学の基本的な諸問題を理解し、物の考え方や人の生き方を検討する。	1. 現代の哲学ないしは倫理学の大きな流れを理解する。 2. 物の考え方や人の生き方を議論するための方法論を理解する。 3. 現代社会における物の考え方や人の生き方の特徴を理解する。					1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		1. ○ 2. ◎ 3. ○
哲学倫理学演習	哲学ないしは倫理学の古典的なテキストを的確に読解する能力を修得する。	1. テキストを解釈することができるだけの語学力を修得する。 2. テキストの内容を的確に解釈するための技術力を修得する。 3. テキストの多様な解釈を批判的に検討するための判断力を修得する。					1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		1. ○ 2. ◎ 3. ○
東洋思想研究	アジアの諸思想の基礎的な考え方、枠組みを、その文化、経済、社会、法、政治的仕組みとも関連づけて学ぶ。	1. アジア的な考え方を特徴づける思想にはどのようなものがあるかを学ぶ。 2. アジアの思想と歴史、社会・経済・政治の仕組みとの関連を系統づけて考えることができる。 3. 世界の思想体系の中でアジアの思想がどのように位置付き、意味を持つのかを考えることができる。					1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		1. ○ 2. ○
宗教学概論	世界の諸宗教を比較検討することにより、「宗教」を具体的に、体系的、批判的に考察できる力を養う。	1. 宗教についての基礎的な知識を得る。 2. 宗教に対する正しい思考・判断力を得る。 3. 宗教に対する関心を深める。 4. 人生に対する真摯な態度を得る。					2. ◎ 3. ◎ 4. ◎		1. ○ 2. ◎ 3. ○ 4. △

